

令和2年度 学校経営の方針

1 学校教育目標

おおらかで たくましく 進んで学ぶ子

- おおらかで（徳・規律ある態度）
- たくましく（体・体力）
- 進んで学ぶ子（知・学力）

2 学校経営方針

学校は、人（みんな）が育つところ

- (1) 学校は児童が主役、判断基準を「東野小の子どもにとって是か非か」に置く。
- (2) 学校教育目標の具現化のために、教職員が協力・協働する組織力で教育活動を推進する（報告・連絡・相談・確認）。
- (3) 学校・家庭・地域が協働し、「みんなの学校」（コミュニティ・スクール）づくりを推進する。
 - ・教育課程を学校・家庭・地域で共有し、子どもを「みんな」で育てる意識の醸成と実働を目指す。
- (4) 学級経営を充実させる（温かさと厳しさの両面が必要）。
 - ・子どもの人権を尊重する。 ・一人一人の良さ、可能性を伸ばす。
- (5) 不易なものは残し、改革すべきものは改革する。

3 めざす学校像

「夢を育み、感動・笑顔・歌声あふれる学校」

- (1) 児童が“学びがいがある”と実感できる
- (2) 保護者にとって“通わせがいがある”と実感できる
- (3) 地域にとって“応援・協働しがいがある”と実感できる
- (4) 教職員にとって“働きがいがある”と実感できる

4 めざす児童像

キーワード

☆ 「創る自分」、「つなげる自分」「失敗を恐れない」
 ※「つなげる」とは…①他者と自分 ②心と行動 ③学びと学び

やさしさにこにこ 元気もりもり やる気どんどん

「徳・体・知のバランスのとれた子」

やさしさにこにこ	元気もりもり	やる気どんどん
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他人の気持ちを考えられる思いやりがあり、思いを形に表せる子 ・ コミュニケーション能力を身につけた子 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康に気をつけ、進んで体を鍛える子 ・ 学校の約束を守り、危険なことを予見でき、安全な生活を送れる子 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から進んで挨拶ができ、はっきりと返事ができる子 ・ 根気よく、最後までやり抜く子

5 めざす教職員像 『子どもにとって最良のモデルとなる教職員』

- 職責に対する使命感を持つ教職員
- 子どもに対する愛情を持つ教職員
- 学び続け、プロとしての力量を持つ教職員
- 常識ある社会人である教職員
- 相手の心がわかる教職員

6 学校教育目標具現化のための重点・努力点

- (1) わかる楽しさ、学ぶ喜びを味わわせる授業づくり
 - ・思考力、判断力、表現力の育成 ・特別支援教育の視点を生かした分かりやすい授業実践
 - ・基礎基本の定着 ・授業規律の徹底
- (2) 豊かな心（明るく素直な心・思いやりの心・感動する心）の育成
 - ・あいさつ、返事の実践、ルール、マナー、規律ある態度の実践 ・特別活動、学級経営の充実
 - ・人権を尊重する環境作り ・道徳授業の充実 ・校外行事、キャリア教育の充実 ・読書活動の充実
- (3) 積極的な生徒指導の推進
 - ・基本的な生活習慣の確立 ・時を守り、場を清め、礼をつくす ・教育相談体制の充実
- (4) 安全指導と体力の向上
 - ・安心、安全な環境づくり ・実用性のあるマニュアルの点検と見直し
 - ・児童の実態把握に基づく継続した体力作り
- (5) 開かれた学校づくりの推進
 - ・学校からの積極的な情報発信 ・地域の教育力の活用
- (6) 特別支援教育の充実
 - ・ユニバーサルデザインの考え方に基づく授業実践

7 引き続きお願いしたいこと

- (1) 凡事徹底（当たり前前かがい、当たり前前かがいできるように）
 - ①教育環境を整える（場を清める）
 - ・授業環境を整えるために教室・学校環境の美化に対する意識を高める。【黙働・黙動】
 - ・学校応援団（P T A・保護者・地域）と協力して校内の美化活動を協働して行う。
 - ・東野小の「学習規律」を全教職員が共通理解のもと、児童へ指導の徹底を図る。
 - ・子どもに分かる、できた、成長した喜びを実感させられる授業づくり。
 - ②時を守る
 - ・教師の「時間を守る」意識を高める。「チャイムで始まりチャイムで終わる」授業計画を立てる。教師は授業に遅れない。
 - ③礼を正す
 - ・いつでも・どこでも・だれにでも、元気な挨拶ができる児童を育てる。
（教師、児童両面からのアクションで）
- (2) リーダー育成
 - 委員会活動の活性化を図り、児童の活動を増やし、主体性を伸ばし、リーダーを育てる。（全校児童に見える活動の実施）
- (3) 生徒指導体制の見直し＝ 積極的な生徒指導
 - ・学校全体として組織で対応。共通理解を深め、共通行動で指導する。
 - ・生徒指導委員会の活性化を図り、情報の共有化と課題解決策を全員で考え、取り組む。
 - ・毎月の生活目標達成の更なる徹底を図る。（振り返りを生かす）
 - ・課題のある児童を学級だけでなく、学年、学校でサポートし、見届ける。
 - ・いじめ、不登校登校をゼロにする。
- (4) 家庭・地域との連携の強化
 - ・P T A活動や地域の行事への積極的参加。
 - ・地域、東野高齢者いきいき広場との交流を推進する。
 - ・学校行事、学年行事、授業での地域、保護者の協力の場を設ける。地域の教育力の活用。
 - ・ホームページを活用した情報発信。
- (5) 幼・保・中との連携の推進
 - ・学習面も含め、小・中連携の発展を考える。（出前授業。スチューデントサポーター・職場体験活動への協力・金管バンドクラブ、合唱の交流。）
 - ・幼稚園、保育所・園との交流を深め、就学にかかる園児の不安軽減を図る。また、園児の情報収集に努め、就学後の支援体制に生かす。

8 コミュニティ・スクールとしての具体的な活動構想

- (1) 国際理解教育の充実のために（学校・地域ボランティア・海外）
 - ①小城先生宅にホームステイをしている学生さんとの交流（総合的な時間）
 - ②十文字、大東文化大学、立教大学の留学生との交流（総合的な時間）
 - ③「ヒッポファミリー」のプログラムの導入（道徳、総合的な時間）
 - ④Chicagoの日本人学校・現地校との交流（総合的な学習の時間）
 - ⑤ブラジル国際交流員による学校訪問の活用（総合的な学習の時間）

- (2) 学習支援（学校・保護者・地域ボランティア）
 - ①「放課後勉強」
 - ②「ミシン学習」（5、6年）
 - ③「ローマ字入力」（3年）
 - ④「かけ算九九」（2年）
 - ⑤「コンパス」（2年）
 - ⑥「都道府県名」（4年）
 - ⑦「漢字検定」
 - ⑧「丸付け」
 - ⑨「教材作成補助」
 - ⑩「校区探検補助」
 - ⑪「むかし遊び」（いきいき広場の方）
 - ⑫「福祉体験」
 - ⑬「出前授業」（バケツ稲、うめ、りんご）
 - ⑭「農業体験」（清水農園）
 - ⑮「英会話」

- (3) 図書教育の充実のために（学校・保護者・地域ボランティア）
 - ①「図書室環境の整備」
 - ②「本の整理」
 - ③「読み聞かせ」

- (4) 子どもの安全・安心のために（地域・保護者）
 - ①登下校の見守り
 - ②20分休み、昼休み校内の見守り

- (5) 学校環境の整備（学校・保護者・地域ボランティア）
 - ①「花壇の整備」（花年間100%）
 - ②「学校設備（ベンチ、門扉…）」
 - ③「掲示物、掲示板」

- (6) 父親の会イベント（父親の会）
 - ①運動会 パトロール
 - ②運動会 テント片付け
 - ③夏休み ラジオ体操
 - ④防災キャンプ

- (7) その他
 - ①子ども食堂 6月